

喜多の
多た
喜き
塗の

梅と海苔

梅は「百花の魁」と呼ばれるように、一年で最も寒いこの時期に咲き始めます。当社でも今月中旬から下旬が見頃で梅田の名の由来ともなった紅梅も春を忘れず咲き誇り、馥郁たる香りで境内が包まれます。

さて、この梅ですが、当神社の御神紋などに用いられているように、デザイン化された梅の紋様が中世以降多く用いられ、多くが天神さまこと菅原道真公と何らかの関わりがあるところでシンボルとして使われてきました。しかし、意外にも道真公と何の関係も無い海苔屋の紋としても近世以降多く用いられました。

なぜ梅が海苔屋の家紋として用いられたかという点、実は海苔はこの二月が収穫期であり、梅の花と海苔は二月の風物詩であった為だそう、そういった由縁から老舗の海苔屋では梅の家紋を用いるところが多くなったんだそうです。

寒さまだまだ厳しいこの季節。梅干をはさんだおにぎりをパリッとした海苔で巻いて二月の風物詩を愉しむのも一興かもしれません。

厄年の御祈祷

当社では厄年の厄除け祈祷を受け付けております。数え年の男性四十二才（昭和四二年生）、女性三十三才（昭和五一年生）の本厄の方と、その後一年の年にあたられる方は厄年にあたられます。当社での御祈祷はご予約制ですので、事前にお電話等でご予約下さい。

二月の二十四節季

日本には春夏秋冬の四季がありますが、この四季を太陽の運行に基き、現在の暦とも合わせて更に細分化したものが二十四節季で、一ヶ月を二季に分けています。

この二月には立春（りっしゅん）と、雨水（うすい）という名の二季があります。

立春とは二月四日頃から雨水までの時期で、この日から暦の上では春となり、統計上ではこの頃から徐々に気温が上がりはじめるが、まだまだ寒さの厳しい時期であり、暖かさにはほど遠い。しかし、梅の花が咲き始めるのを見ると春の訪れが感じられる。ちなみにこの立春の前日が節分であり、季「節」の「分」かれ目なので節分という。旧暦の時代はこの頃がお正月であり、年が明けてから厄年の厄除け祈祷を受けるという習慣が、新暦になっても残り、節分以後厄年祈祷を受けるという風習となつて残っている。

雨水は二月十九日頃から三月の啓蟄までの時期で、空から降るものが雪から雨となり、雪が溶け始める頃とされ、古来、農事初めの時期であり、各地で祈年祭などの春祭が行われる。ちなみに梅が見頃となる時期でもある。この二月は春の先駆けの梅の香りに、春の訪れを実感する季節といえそうです。

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、
au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜（神主）

白江 秀知

